

小学校外国語

指導のポイント

コミュニケーションの目的や場面、状況を明確にした言語活動を単元の中に位置づけ、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を通して資質・能力を育成しましょう。

評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような児童の姿であれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのか想定しておきます。その上で、形成的評価により児童の学習状況を的確に把握し、指導改善を図りながら、総括的評価の場面を迎えることが大切です。

目標に向けて充実した言語活動が行われれば、自ずと評価はついてきます。

1 外国語科における内容のまとめ

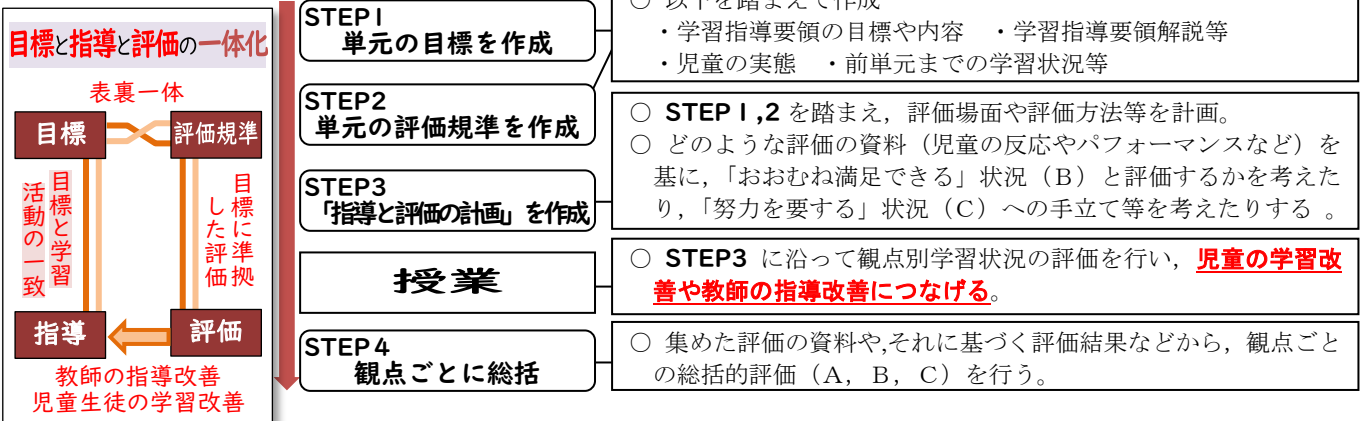
【目標】

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
聞くこと	アイ	ウ
読むこと	アイ	
話すこと〔やり取り〕	アイ	ウ
話すこと〔発表〕	アイ	ウ
書くこと	アイ	

【評価】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞			
読			
話や			
話発			
書			

2 学習評価の進め方について



3 「内容のまとめ」ごとの評価規準

外国語科においては、各単元で取り扱う事柄や、言語の特徴や決まりに関する事項（言語材料）、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況、取り扱う話題などに即して設定します。

【例：話すこと〔やり取り〕の場合】

知識・技能

<知識>

- ・「【言語材料】について理解している。」が基本的な形となる。
- ・【言語材料】には、当該単元で扱う言語材料が入る。
- ・言語材料の種類に応じて、「○○の意味や働きを」などの形で当てはめることも考えられる。

<技能>

- ・「【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、【内容】を伝え合う技能を身に付けている。」が基本的な形となる。
- ・【事柄・話題】には、当該単元で扱う題材における話題等が入る。
- ・【内容】には、当該単元の中心となる言語活動において伝え合う、【事柄・話題】についての自分の考えや気持ち、あるいは指示や依頼及びそれらへの応答など、伝え合う内容が入る。



思考・判断・表現

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を伝え合っている。」が基本的な形となる。
- ・【目的等】には、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを、「○○に応じて」「○○するよう」「○○するために」などの形で当てはめる。その際、学習指導要領の「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえて設定する。

主体的に学習に取り組む態度

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を伝え合おうとしている。」が基本的な形となる。
- ※ 言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況については、特定の領域・単元だけでなく、年間を通じて評価する。

4 単元における指導と評価の例

事例 We Can I Unit2 When is your birthday?
 における「話すこと[やり取り]」 ※「聞くこと」についての評価については割愛

□単元の目標

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。
 ※ なお、本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行わすが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

□単元に位置付ける主な言語活動

バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りする。

□単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 月日の言い方や、 言語材料 I like/want~. Do you like/want~? What do you like/want? When is your birthday?、 その答え方について理解している。 <技能> 誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、 I like/want~. Do you like/want~? 言語材料 What do you like/want? When is your birthday? 等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	自分 の ことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。 内容 事柄・話題	自分 の ことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。 内容

関係する領域別目標

「聞くこと」
 イ ゆっくりはつきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようになる。
 「話すこと[やり取り]」
 ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。
 「書くこと」
 ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようになる。

POINT

「話すこと[やり取り]」は、「聞くこと」が前提となるため、十分に「聞く」活動を行うことに留意します。

POINT

目的・場面・状況を明確にした言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育みます。

POINT

形成的評価により、児童の学習状況を把握し、児童が「できる」ように指導改善を図ることが重要です。

POINT

cの状況の児童にどのような手立てを講じるかが重要です。

□指導と評価の計画

時	【評価場面】◎:評価規準 <評価方法>	A児
1-5	記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。	
6	【Activity 2】 p.16 ・バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りする。 ◎ [知・技] 誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。 <行動観察> ・児童が伝え合う様子を観察し、評価の記録を残す。	(知) c 変容
7	【Activity 2】 p.16 ・バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りする。 「話すこと[やり取り]」の記録に残す評価] ◎ [思・判・表] 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。<行動観察> ◎ [態] 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。<行動観察> ・児童が伝え合う様子を観察し、評価の記録を残す。	(知) b (思判表) b (態) b

本単元におけるA児の評価 「知識・技能」:b 「思考・判断・表現」:b 「主体的に学習に取り組む態度」:b

□学期における評価(例)

bの数により領域の総括をBとした例

単元・領域→	1聞	2聞	3聞	4聞	2や	3や	や	1発	発	学期
知技	b	a	b	B	b	b	B	b	B	B
思判表	b	b	a	B	b	b	B	b	B	B
態	b	b	a	B	b	b	B	b	B	B

※5年生の1学期は、「読むこと」「書くこと」の指導は行わすが、まだ始めて間もなく、力がついていないため、記録に残す評価は行わないということも考えられる。

単元・領域→	4聞	5聞	6聞	6読	読	4や	7や	や	5発	6発	発	7書	書	学期
知技	b	b	B	b	B	b	b	B	a	a	A	b	B	B
思判表	b	b	B	b	B	c	b	B	b	b	B	b	B	B
態	b	b	B	b	B	b	b	B	b	b	B	b	B	B

変容を評価し、領域の総括をBとした例

評価の方法、時期、基準等については校内において確認・改善することが重要です。